

田麦野地域

実施日 平成20年8月1日（金）

市民のこえ	所管課等	回答及び対応状況
<p>① 6月に岩手・宮城内陸地震が発生しましたが、田麦野地域においても地震に限らず、台風、集中豪雨等の災害発生による孤立化が懸念されるところです。交流施設「ぼんぼこ」は、災害時の避難の場所にもなっています。このたび施設の多目的利用の一環として、男女各1個ずつシャワールームと多目的トイレ1個、防災倉庫を整備していただきました。地域の方は、大変喜んでいきます。倉庫については、防災用品が備えられてはじめて利用価値があるかと思えます。早急な備えが必要と思えますが計画は、どのようになっているのでしょうか。</p> <p>また、天童高原の多目的運動場が県の臨時ヘリポート及び訓練の場として位置づけられているとのことですが、それらとの連携した防災計画をお願いします。</p> <p>また、押切川に5ヶ所橋がありますが、県の補修が遅れているのはどうしてでしょうか。</p>	<p>危機行革管理室 建設課</p>	<p>田麦野地区については、大規模地震等の発生時に、がけ崩れなどにより、連絡道路が寸断され、集落の孤立化が懸念されることから、20年6月、通信手段の確保や食料等の備蓄、臨時ヘリコプター発着所の確保などを盛り込んだ、孤立集落予防計画を策定し、天童市地域防災計画に追加したところではあります。</p> <p>防災倉庫については、集落が孤立した場合に住民の食料や生活必需品の備蓄倉庫として活用を図り、アルファ米や缶詰など、住民2日間分の食料1,400食と毛布100枚を、20年12月に配備したところではあります。</p> <p>また、臨時ヘリポートについては、天童高原多目的広場だけでなく、交流施設「ぼんぼこ」のグラウンドもヘリコプターの臨時発着場所として予め指定しており、孤立化した際の救援物資の空輸や被災者の医療機関への搬送など緊急事態に備えています。</p>
<p>② 過疎化が進み人口の減少、とりわけ子供や若者が少なくなっており、事業を行うにも高齢化により、活動する人材が限られているのが実情です。地区内には10数軒の空き家があり、中には倒壊の危険があるものも</p>	<p>総合政策課</p>	<p>昨年、首都圏の団塊世代を対象として、「田舎暮らし体験ツアー」を実施しました。地区内の空き家も活用しての3泊4日、参加者と地域の方々が仮親戚協定を結ぶなど一歩踏み込んだものとして実施したことで、参加者は大変良い印象を持ったようです。</p>

## 田麦野地域

実施日 平成20年8月1日（金）

市民のこえ	所管課等	回答及び対応状況
<p>多くなっています。また、農業者の減少と高齢化により、放置農地が増えている状況となっています。以上のことを改善する一つの試みとして、昨年「田舎暮らし体験ツアー」の企画がありました。一定期間の定住や地方移住まで進むには、時間とシステムの構築が必要だと思われます。</p> <p>人口を増やす方法として、先ほどの空き家、放置農地の利用、また、留山川ダム河床から発生する粘土の活用等様々な検討する材料があると思います。そして、田麦野にふさわしい企業を誘致するとか、牧野公社、天童高原も含めた全体的な地域振興策として、市の考え方をお聞かせ下さい。そして、若い人も住みやすい環境整備をお願いします。</p>		<p>田麦野地域については、交流施設「ぽんぽこ」と天童高原ロッジと地域住民との連携による、多様な交流メニューの提供を行って、訪問者のニーズに対応するとともに、春の山菜、夏のキャンプ、秋の紅葉、冬のスキーなど、天童高原の魅力をアピールしていく必要があります。</p> <p>昨年実施した「田舎暮らし体験ツアー」が一つのきっかけとなり、田麦野地域との多様な交流が生まれ、移住につながるよう、地域の方々とともに地域の活性化に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>空家を活用した民泊体制整備のための補助や起債がないのかを検討しています。</p> <p>また、留山川ダム工事で大量に発生する粘土の利活用については、村山総合支庁が中心となり、専門家や山口・田麦野の地域代表者などからなる検討委員会を設置し、地域住民からもアイデアを募り、その特性を生かしたお土産品などの開発や、地域活性化に向けた活用策などを考えています。</p>